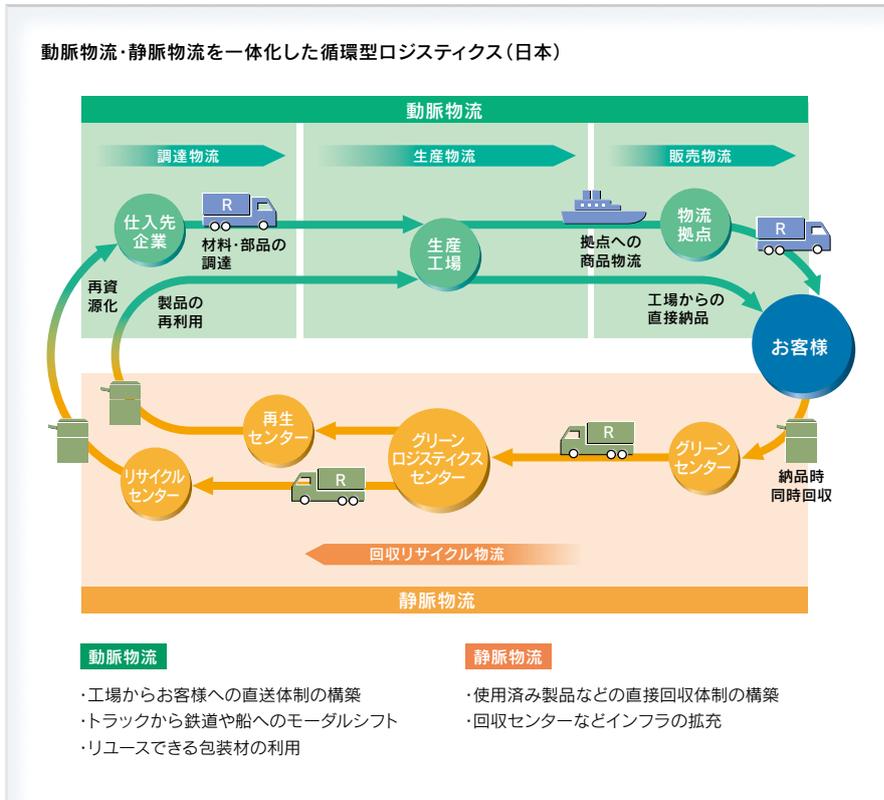


循環型ロジスティクスの構築やモーダルシフトの推進により、物流におけるCO₂削減に取り組んでいます。

持続可能な循環型社会を実現するためには、製品などの輸送を行うロジスティクスも重要な取り組み課題です。リコーグループでは、お客様への直送・直接回収のための体制づくりなど、動脈物流・静脈物流を一体化した「循環型ロジスティクス」の実現に向けて取り組んでいます。また、モーダルシフトの推進や低公害車の導入による物流ネットワークの環境負荷低減も重要な取り組みです。今後は、グローバルSCM(サプライチェーン・マネジメント)の構築に向けて、日本での成功事例を世界展開していきます。



物流の効率化と環境負荷低減を目指したグローバルな物流改革

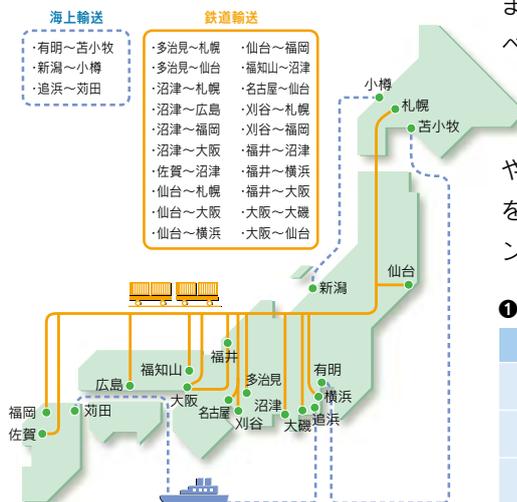
リコーは2005年6月、物流の効率化と環境負荷の低減を目指して、リコーグループの物流改革をグローバルに推進するための組織を設立しました。現在、部品の調達物流、工場内物流、国内在庫拠点までの動脈物流、国内から海外への動脈物流、国内およびヨーロッパの静脈物流に関する環境負荷の把握を開始しています。これに基づき、物流の効率化と包装材の削減によるCO₂と廃棄物の削減、コスト競争力の強化を図っています。

モーダルシフトの推進 《リコーロジスティクス/日本》

リコーロジスティクスでは、環境負荷の少ない輸送手段への「モーダルシフト」を積極的に推進しています。2005年度は、リコー御殿場事業所から大阪への中型複写機の輸送ルートや、名古屋から東

北リコーへの部品の輸送ルートを鉄道に切り替え、現在は、海上3路線、鉄道23路線の計26路線でモーダルシフトを展開しています。これらの路線の環境負荷をトラックで輸送した場合と比較すると、年間約4,678トンのCO₂排出量を削減できた計算になります。

日本国内の主なモーダルシフト状況



車両の燃費改善と配送ネットのグリーン化 《リコーロジスティクス/日本》

リコーロジスティクスでは、デジタルタコメーターの活用、ドライバーへの省エネ安全教育の徹底などにより、車両の燃費改善に取り組んでいます。デジタルタコメーターは、2006年3月末現在、全車両数の約42%、113台に搭載されています。ドライバーが自らのエコドライブレベルを認識することにより、25%の燃費改善が実現しました。また、CNG車30台、ハイブリッド車12台の導入や共同輸送・往復物流などで運行効率を向上させるなど、配送ネットのグリーン化を積極的に推進しています。

①リコーロジスティクスの輸送におけるNOx、SOx排出量

	NOx(t)	SOx(t)
2003年	2.6	0.4
2004年	2.8	0.4
2005年	2.8	0.4

INTERVIEW

社員に聞く

モーダルシフトの推進

物流の環境負荷低減を目指し、
販売、調達物流すべてのルートで、
モーダルシフトを推進しています。

目標はコンテナ5,000本、 モーダルシフトチャレンジ5,000を推進

トナーなど複写機の消耗品を生産するRS事業部では、環境経営の一環として、2006年度末までに年間5,000本のコンテナ輸送を目標にした「モーダルシフトチャレンジ5,000」活動を展開しています。製品を市場にお届けする販売物流、製品の原材料を調達する調達物流のすべてのルートを洗い出し、コストを上げずにトラックから鉄道への切り替えが可能なルートを検証し、積極的に切り替えています。モーダルシフトを行ううえで重要なのは、切り替え後の具体的な物量の予測や積載効率の把握、運賃割引などのシミュレーションです。一見、切り替えによりコスト増が懸念されるルートについても、シミュレーションを綿密に行うことで、モーダルシフトが実現しました。

調達物流に関しては、仕入先様にも多大なご協力をいただきました。また、単に輸送手段の変更だけでなく、リードタイム短縮などを含めたサプライチェーン全体の改革と並行して取り組んだことが活動を加速できた要因となっています。2005年度3月末時点で、年間3,540本の鉄道コンテナ輸送の体制が整いました。また、調達物流全体のCO₂排出量に関してはまだとらえていませんが、販売物流におけるCO₂排出量は2003年度比で722トンの削減となりました。RS事業部の販売物流全体における鉄道輸送の割合は約19%となっています。

日頃の活動状況を背景に、 いち早く「エコレールマーク」を取得

エコレールマーク認定制度とは、国土交通省が2005年4月からはじめた、環境負荷の少ない鉄道貨物輸送を積極的に活用している企業、および商品認定する制度です。認定条件にある500km以上のエリアへの輸送状況を計算したところ、RS事業部は、トナー、OPC、シアゾ紙、PPC紙などの製品全体の72%、トナー単品では50.7%を鉄道コンテナ輸送していました。すでに認定条件を大きく上



モーダルシフトの推進担当
RS事業部 事業企画室（左から） 酒井 茂雄 志賀 満広 内野 哲也

回っていたため、他社に比べても早い段階の2005年7月にエコレールマーク認定を受けることができました。



《エコレールマーク認定条件》

- 工場から500km以上の製品輸送の15%以上を鉄道コンテナ輸送している企業
- 工場から500km以上の製品輸送の30%以上を鉄道コンテナ輸送している商品

「グリーン物流パートナーシップモデル事業」の支援で、 専用コンテナを導入

2006年3月には、リコーのコーポレートロゴマークとエコレールマークをつけた新しい専用コンテナ7台を導入しました。これは、私たちのモーダルシフト事例が国土交通省・経済産業省の「グリーン物流パートナーシップモデル事業」として認定され、コンテナ製造費用の補助を受けられたことにより実現しました。専用コンテナは、沼津を基点に北海道から九州までの広いエリアを走行します。このコンテナを利用した物流ルート改善により、CO₂排出量は従来の1/7になることが見込まれています。さらに、コスト削減効果、PR面でも効果が期待されています。



リコーのロゴマークが入った真新しい専用コンテナ